

技術士の存在意義を示す

(公社)日本技術士会 中国本部長 大田 一夫



新年明けましておめでとうございます。

皆様には、平素より本会の事業運営にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

日本技術士会中国本部の使命は、「技術士の資質向上」と「技術士の地位向上」の二つに集約されます。

一つ目の使命である「技術士の資質向上」については、県支部・委員会・部会が積極的にCPD(継続研鑽)行事を開催した結果、2018年度実績でみると、CPD行事数が116回(うち55回が東京での講演会のWeb中継)、提供した

CPD時間が263時間、延べ参加人数が3912人となっております。

本会は、昨年5月に「技術士制度改革について(提言)」(最終報告)を取りまとめました。この中で「技術士更新制度の導入」が提言され、更新要件として「更新講習の受講」と5年間でCPD100時間(年平均で20時間)の取得が必須となっており、近い将来に導入される更新制度に向けて、これまで以上に「CPD機会の提供」の役割が強まっております。

二つ目の使命である「技術士の地位向上」に関する活動については、教育支援、防災支援、中小企業支援の3本柱の社会貢献活動に積極的に取り組む、技術士の存在意義を社会に示すことが肝要と考えております。

教育支援については、13年の津山高専に引き続き、昨年の2月に徳山高専、7月に呉高専、8月に岡山理科大学と相次いで連携・協力の協定を締結しました。大学・高専の教育現場では、社会のニーズに対応した実践的教育が重視されており、本会の豊富な人材ネットワークを活用したキャリア教育支援は重要な社会貢献活動の柱と捉えております。

防災支援については、昨年は幸いにも中国地方では大きな災害が発生しませんでした。14年と18年の広島での豪雨災害の時は、ボランティアセンターへの運営スタッフの派遣、被災地での相談会の開催や避難マップづくりの支援等を行いました。また、被災後の支援に加えて、最近、「公助」の限界が言われている

中、「自助」「共助」による防災力の強化に効果のある「平常時の防災教育」にも力を入れております。

最後に中小企業支援については、中小企業庁の「ミラサポ専門家派遣」への登録、技術士事務所開業への支援、関係機関への技術士活用働きかけを強化したいと考えています。

科学技術創造立国として世界的な大競争時代をリードしようとする我が国にとって、質の高い十分な数の技術者を育成していくことは重要な課題であります。産業構造や経済社会、国際的な環境が大きく変化し、技術者に求められる資質能力がますます高度化、多様化する社会環境において、社会ニーズに対応した高い専門性と倫理観を有する技術者として技術士資格を有した優れた人材の育成・確保は必須と考えております。

最後に、新しい年が皆様にとりまして、幸多き年となりますことを祈念申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。